

11月14日 出エジプト記6章2～13節 今日の説教から  
説教題：「導き出しの神様」

私たちの信じる神様は、唯一の存在であり、三位一体の神様であり、そして「希望の神様」でもあります。それは、私たちの神様が「私たちを死ではなく復活という救いに導く神様」であるとともに、今日の聖書箇所に記されているように「導き出しの神様」であることも私たちに大きな希望を与えてくれています。だからこそ、私たちはつらい時・苦しい時に「神様であれば私たちを助けてくれる」「支えてくれる」と頼ることが出来るのです。

ただ、そのように神様が「助けてくれる存在である」という事は、世界の始まりの時から明らかにされていたわけではありません。実は、出エジプト記の3章、モーセの召命の時点まで、神様は自分の名前をだれにも伝えていなかったのです。私たちは、「神の名をみだりに唱えてはいけない」という十戒の言葉を知っていますから積極的に名前を呼ぶことはありませんが、神様の名前が「ヤハウェ」である、という事は聞いたことがあると思います。その名前は、モーセまでの誰にも伝えられていなかったのです

出エジプト記の3章でモーセに伝えられた神様の名前は、私たちの聖書では「わたしはある。わたしはあるという者だ」と書かれています。これは、英語やギリシャ語として翻訳された場合に「be 動詞」と呼ばれる、「I am」の「am」の部分によって説明されるものなのですが、元となるヘブライ語の動詞ではもう少し違う働きがあるようです。そこには、be 動詞の持つ「場所や時間を説明する」属性では縛りきれない「広がり」が込められています。つまり、わたしたちの神様は場所に縛られることも、時間に縛られることもない、「無限の広がりを持った存在である」という事がその名前に示されているのです。

モーセはイスラエルの民としての割礼を受けてこなかったこと、かなりの口下手であることを理由に神様からの命令を断ろうとしますが、しかし神様が人々の前に働くためにそのような賜物が必要なわけではありません。私たちの神様が「わたしはある」という方であること、そして神様に「わたしは必ずあなたと共にいる」と語り掛けられている事さえ理解することが出来れば、すべての業は神様が支え導いてくれることを理解できることでしょう。

私たちの人生の中で、小さな人間関係から大きな災害まで、私たちではどうしようもない様々な苦難が襲い掛かって来ることがあります。そのようなときには、だれにも助けを求めることが出来ず、自分がまるでこの広い世界の中で「孤独」であると感じるかもしれません。しかし、神様は私たちを決して孤独にはしておきません。「わたしは必ずあなたと共にいる」その言葉に示されているように、私たちにはいつも神様が関わってくれているのです。そして私たちはそれを、十字架によって死を迎えた主イエス様が滅びへと至ったのではなく、死を滅ぼされて復活したことによって実感することができるのです。イエス様が滅びることなく、今もなお私たちの人生に関わってくださっている。だからこそ私たちはさらに神様を身近に実感することが出来るのでないでしょうか。

クリスマスの出来事においてこの世に遣わされたイエス様によって、そしてその言葉をより多くの人々に伝えようと尽力した弟子たちの働きによって、今私たちは神様からの喜ばしい知らせ「福音」を受け止めることができます。「わたしは必ずあなたと共にいる」、そう語りかけてくださる方が私たちの神様なのです。その喜びを胸に、今週一週間の、これから歩みを共に進めていきましょう。

## 今日の説教箇所：出エジプト記 6 章 2～13 節

- 2:神はモーセに仰せになった。「わたしは主である。わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに全能の神として現れたが、主というわたしの名を知らせなかつた。わたしはまた、彼らと契約を立て、彼らが寄留していた寄留地であるカナンの土地を与えると約束した。わたしはまた、エジプト人の奴隸となつてゐるイスラエルの人々のうめき声を聞き、わたしの契約を思い起こした。それゆえ、イスラエルの人々に言いなさい。わたしは主である。わたしはエジプトの重労働の下からあなたたちを導き出し、奴隸の身分から救い出す。腕を伸ばし、大いなる審判によってあなたたちを贖う。そして、わたしはあなたたちをわたしの民とし、わたしはあなたたちの神となる。あなたたちはこうして、わたしがあなたたちの神、主であり、あなたたちをエジプトの重労働の下から導き出すことを知る。わたしは、ア布拉ハム、イサク、ヤコブに与えると手を上げて誓った土地にあなたたちを導き入れ、その地をあなたたちの所有として与える。わたしは主である。」モーセは、そのとおりイスラエルの人々に語つたが、彼らは厳しい重労働のため意欲を失って、モーセの言うことを聞こうとはしなかつた。
- 10:主はモーセに仰せになった。「エジプトの王ファラオのもとに行って、イスラエルの人々を国から去らせるように説得しなさい。」モーセは主に訴えた。「御覧のとおり、イスラエルの人々でさえわたしに聞こうとしないのに、どうしてファラオが唇に割礼のないわたしの言うことを聞くでしょうか。」主はモーセとアロンに語つて、イスラエルの人々とエジプトの王ファラオにかかる命令を与えられた。それは、イスラエルの人々をエジプトの国から導き出せというものであった。